

会 議 録

会議名称	令和元年度タウンミーティング	記録者	健康福祉課 課長補佐
日 時	令和元年7月11日（木） 午後7時～午後8時30分		
会 場	紺屋町集落センター		
出席者	町 長：町長、副町長、教育長、参事兼総務課長、参事兼財政課長、 企画振興課長、健康福祉課長補佐（書記） 住 民：24人		
会議内容	1 開会 2 町長あいさつ 3 出席者紹介・開催趣旨説明 4 第二次宝達志水町総合計画基本構想等の説明 5 意見交換 6 閉会		
会議結果	<p>●質問</p> <p>次の10年の計画もいいが、現在の計画について振り返りが行われているのか。節目の検証は大切だと考える。また、隠岐の島や青森での特色ある学校活動で人口が増えていることが新聞等で取り上げられている。町独自の手法で人口を増やすことも大切だと思うがいかがか。</p> <p>○回答（企画振興課長）</p> <p>現在の計画についての検証については記載していないが、第1次の計画では7つの基本方針の基に各種事業を実施した。オムライスパロジェクトや宝浪漫マラソン、民間建設住宅の補助、今池団地の宅地分譲等いくつか実施している中で、各課において進捗状況や今後の必要性等を検証している。第2次においては、それらを踏まえたうえで、廃止するもの、引き継ぐものや新たなものを加えることを考えているが、人口減少には歯止めが掛からず課題が残っている。第2次総合計画には、全てではないが5年後、10年後を目安とした指標や数値目標を掲げ行なっていきたい。</p> <p>○回答（町長）</p> <p>検証は大切であるため第2次計画については数値化し、しっかり行っていく。隠岐の島の海士町は、奇跡に近いような成功事例である。町長がリーダーシップをとり、町唯一の高校を存続させるために頑張ってきた。地域を活かした取り組みを行い、都会や島以外から多くの人を呼び込んでいる。学校もそうだが町全体が盛り上がっている。本町も過疎が進んでいく、高校存続が危ぶまれている等状況は似ている。</p>		

私たちも宝達高校は残したいと考えており、少し補助もしている。成功した所に倣いながらやっていきたいと考えている。ここならではの教育を見つけてやっていきたい。海士町は、島ならではのことを売りにしている。稼いでいくためにPRしている。本町も素晴らしいものをもっており、独自の強みを見つけながらやっていきたい。町の売りを商品やサービスとして提供しながら人に来てもらい、ゆくゆくは町の良さを産業や観光として伸ばしていきたい。

●質問

農林水産業の振興について、管理法が施行された。三業種の中で大切な産業であるが、山に木を植えて50～60年経過しないと売り物とならない。こういった長期間を要するものについて、森林管理や農林振興をどうしていくのか。思いがあれば聞きたい。また、吉野屋の圃場整備については、地元負担なしでやっていると新聞に掲載されていた。紺屋町でも整備を行ってから半世紀経過しているので、そのような手当てがあればいいと思う。第1次の検証がないためわからないが、町はどういった施策を行なっているのか。今後、どうやっていくのかを教えてほしい。

○回答（副町長）

林業は厳しいというイメージを持っているが、調べれば可能性がないわけではないと思うので、これから勉強して打てる手を打っていききたい。

○回答（町長）

吉野屋は、新しくできた中間管理機構に預け行っている。所有者や生産者に非常に有利なものなので、地元の皆さんの基盤整備が必要だとの思いがあれば、役場としても協力を行なっていきたい。一番は地元の皆さんの思いが大切である。

●質問

今は、自己負担をしてまで林業や農業を行なっていこうという人が少ない。どこの集落も同じだと思う。こういった制度の推進が必要でないか。

○回答（町長）

そう思っている。そういうふうに進められればと思っている。

○回答（副町長）

米について、以前は全て国が買い上げるいい時代だったが今は違う。自分で作り自分で売ることを模索すべき。それを集落で行ってもいいのでは。

○回答（町長）

ここの米は、本当においしい。これを高く売って儲かる農業をやっ
ていこう。米に限らずいろいろな作物があるが、作って出荷するだけ
では稼げないので、プラスアルファを求めて行っていくことが大切で
ある。

■意見

稼げる農業より、中山間地の農地を守り次につなげることが大切だ
と思う。次世代につなぐということが今の時代難しい。負担が掛から
ない、経費の掛からない経営をしていくことが前提である。その後で
高く売っていく。環境を守ることが大切。山林についても50～60
年経って初めて生産工程に入りお金になる。これらを考慮し、推進し
てもらいたい。

○回答（町長）

おっしゃるとおりだと思っている。町外では、若い人が農業に携わ
る方も出てきた。若い人が農林業をしやすい方法や意欲を持った人を
育てていきたい。

●質問

宝達山の開発について、山の龍宮城の改修等が行われているが、今
後どのようにしていくのか。

○回答（企画振興課長）

龍宮城については、長寿命化のため7、8月に改修を行っていく。
宝達山全体の開発は計画があるが、未定である。財政状況を踏まえ徐々
に行っていく。

○回答（町長）

現在、マラソンや自転車競技の練習を行なっている人がいる。除草
等は最低限対応しておく。登山人口も増えてきており、町でも将来へ
の想いをもち県と協議しながら維持管理を行っていく。

●質問

関東ふるさと会にはどのような方が出席しているのか。

○回答（副町長）

今週7日に行われた関東ふるさと会へは、私と企画振興課長が出席した。総勢70名くらいの出席者。みなさん愛郷心があり、生活に比較的ゆとりのある方が多いと感じた。

○回答（町長）

いろいろ協力頂いている。関東の新聞社に情報を提供したり、4千人位集まるバイクイベントに東京から手弁当で参加してくれたり、所司原の民泊イベントにも協力をしてもらった。その想いに応えられるようにしっかりとやっていきたい。

●質問

広域農道の土砂崩れは、具体的にどうなっているのか。マラソンの関係で氷見からの参加者が見込まれるため、片側通行できるのか。迂回路を作ってはどうか。

○回答（参事兼総務課長）

2年ほど通行止めが続いている。調査等行なってきたが、この連休でまた崩れた。復旧については、県事業で行っていくことで目途がついた。ただ、調査に1年以上かかる予定のため通れるまでにはまだ時間がかかると思われる。5月連休に大きな落石があり、工事等の関係車両のみ片側通行できるようになっている。町としては、安全を考慮し通行止めとしている。迂回路については、出来るかどうかを検討したい。

●質問

消雪が全てダメになっている。水が上に上がっていかない。

○回答（参事兼総務課長）

一昨年、わかった時に県土木に連絡している。今年、どうしたのか県に確認し修繕依頼をかけていく。

●質問

他市町で、職員の時差出勤を行なっているようだが当町はどうか。

○回答（参事兼総務課長）

時差出勤ではないが、夏に夕方の時間を活用しようと「夕活」を行なっている。朝、1時間早く出勤し1時間早く退社するもの。全ての職員が出来るものではないが、出来る職員は行っている。

●質問

小学校の統合について、教育長答弁が新聞に掲載されていた。あと4、5年かかるということだったが、どういった課題があるのか。志雄地区には全員入れる場所があるが、押水地区には無いように思われるが。また、統合しバス通学となれば子どもの体力が落ちることが想定される。そういった対策を統合する前に計画を立て行なっていたきたい。

○回答（教育長）

場所が決まり、そこから4、5年かかるというもの。それくらいの事務量があるというもの。どの場所につくるかが決定していないため、それが決まってから4年はかかるということ。志雄地区はすぐに出来るが、町の小学校のあり方について整理し行うため、しばらく時間がかかると思われる。子どもの体力については、既に志雄小学校で実績があるためそれを調べたうえで行っていく。検討課題の中にこのことも盛り込み、体力後退にならないよう取り組んでいく。

●質問

田を作る方が年々少なくなっていく中、田に納屋を建て大規模に行っていきたいが農地転用できるのは100haぐらいだと聞いている。やる気のある若者が納屋を建て行いたいと言っているが、ダメということで作付面積も増やすことができない。どうすればいいのか。

○回答（副町長）

農業用に納屋を真剣に建てたいと考えているのであれば、後で相談に来てください。詳しくお話を聞いて何か手はないか考えます。

■意見

坪山でも昨年避難所を開設したが、高齢者と2人だけでは居辛い。民生委員は家に介護者がいるため動けない。区長ばかりあてにされても困る。

○回答（参事兼総務課長）

区長、民生委員には、大変お世話になっている。その方だけに頼るのではなく、近隣の住民が協力することが大切だと思っている。

●質問

会館で100人が1週間避難するとした場合、何がどのくらい必要なのか等マニュアルがあるのか。

○回答（町長）

ない。作っていきたい。

●質問

老朽ため池の調査を行うので草を刈っておくように言われた。その後、結果はというと聞いてないという。大丈夫だったのか。

また、坪山に古いため池がある。一方、坪山から冬野に向かう所に消雪装置の井戸がある。その井戸を灌漑用に使えば、ため池は必要ない。壊れたら誰が直すのか。もう一度新しく要望すればいいのか。例えば、圃場整備をして調整池を作るなら、冬に融雪でも使えるよう考えることが今後必要ではないか。やっていることが単発である。現在は、3割減反しているため昔の水量はいらなくなっている。

○回答（参事兼総務課長）

今のため池の例を教訓とし、役所の横の連絡を密にしていきたい。